特集にあたって

安田　一彦（東北大学）

近年のインターネットに代表される情報通信技術の急速な発展は世界的規模であらゆる分野に大きな変革をもたらしている．金融業をはじめとして，製造業や流通業など多くの産業においてe-Businessと呼ばれるこれまでとは大きく異なる新しい経営スタイルの企業が多数誕生し注目を集めている．これら企業に共通した特徴はいずれも最新の情報技術（IT）を「戦略的」に活用していることである．

さて，本特集でも用いている「戦略的」という用語については個々人により多様な解釈が可能であるが，企業経営に関連した意味合いで考えると「新たな事業の枠組みや経営の仕組みを(再)構築すること」と理解することもできる．このような経営戦略の観点から，「戦略的情報化」とは「企業を取り巻く経営環境の変化に対応してITを積極的に活用して企業改革を行い，経営目標達成のために企業活動を最適化すること」であると考える．バブル崩壊後の厳しい経済環境が長期に続くなか，大手企業はもとより，大多数の中堅・中小企業でも事業継続のために利益率の高い仕事の創出，安全確実な資金調達，優秀な人材確保，急激な国際化・情報化への対応など，多くの経営課題に直面している．とりわけ，中堅・中小企業では深刻である．このような経営環境のなかで，中堅・中小企業が生き残り，かつ持続的に発展していくためには，情報化を推進し経営革新を図ること，すなわち「戦略的情報化」が重要である．本特集はこのような事情から企画されたものであり，中堅・中小企業における戦略的情報化の推進の一助になれば幸甚である．

まず，最初は和田英男氏の「戦略的情報化投資活性化事業：ITSSP（ITソリューションスクエアプロジェクト）の紹介とその意義について」である．昨年発表された政府の産業構造審議会情報産業部会情報化人材対策小委員会の中間報告を受けて，通商産業省と情報処理振興事業協会の主導で開始された中堅・中小企業経営者向けの戦略的情報化に関する支援事業の全貌が限られた紙面内で簡潔にまとめられている．通称ITSSPと呼ばれているこの事業は，中堅・中小企業の積極的な情報化投資の活性化と，戦略的情報化に意欲的な企業経営者を側面から支援できる人材の育成などを目指したものである（私自身，この事業に当初から拘わり，現在もITSSP情報提供センター内のパッケージ評価分科会長として活動している）．

次は当研究室の研究テーマの1つであるエンタープライズ・モデリング（企業のモデル化）研究の前段階に位置付けているビジネスプロセス・モデリングにおける最近のソフトウェア・ツールに関する調査結果の一部である．戦略的情報化を行う際，企業の現状を抜本的に見直して新たな仕組みや枠組みを構築するためには既存の業務や組織を記述し分析する必要がある．このような場合に使用できるソフトウェアは数多く提供されているが，その情報が周知されているとは言い難い．本稿は現在国内外で流通している主要なツールを見つけ出し，これらの分類を行っている．

3番目の話題は上野信行氏の「中堅・中小企業におけるERPパッケージの活用」である．中堅・中小企業で基幹業務システムをERPパッケージを活用して(再)構築する際には，大手企業の場合とは異なる種々の困難がある．製造業で長年活躍され，豊富な経験に裏付けされた上野氏の現状分析とERPパッケージ適用への適切なアドバイスは戦略的情報化に積極的な中堅・中小企業経営者のみならず，情報サービスに携わる人々にとっても示唆に富むものである．

最後は板東義隆氏他による「中堅・中小企業におけるERPパッケージ導入事例紹介」である．ERPパッケージによる基幹業務のシステム化は従来の業務アプリケーション・システム開発とは様々な点で異なることが指摘されている．これからERPパッケージの導入を計画している中堅・中小企業にとって，ここで紹介されている2つの先進導入事例は貴重な情報である．しかし，紙面の制約もあり詳細な説明が割愛されているのが残念である．ぜひ，これをITSSP情報提供センターを経由して広く公開していただきたい．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．